

東京交通新聞

東京交通新聞社

〒160-0022
東京都新宿区新宿2-13-10
電話(代)03-3352-2181
編集 03-3352-2182
出版 03-3352-2183
販売 03-3352-2184
広告 03-3352-2185
FAX 03-3352-2186
編集発行人・横山敬一郎
振替口座東京00110-7-52616
©東京交通新聞社 2017

初の「脳MRI」認定マーク

桜交通 バス7台に貼付

福島、宮城、東京の3都県などで貸切・高速バスを運行する桜交通(福島県白河市、小櫻輝社長)は21日、「運転従事者脳MRI(磁気共鳴画像装置)健診支援機構」(代表理事水町重範・水町メディカルグループ代表)から認定マークの事業者証ステッカーが贈られ、東京営業所(足立区)の7台に貼り付けた。車体への貼付はバス・タクシー・トラック業界で初。同社は旧高速ツアーバス組の一

角として知られる。脳MRI健診機構は医学界や国土交通省が連携し、2015年に設立された。これまで約110社5000人を健診済みとして認定してきた。医学的知見に基づく「疾病運転」防止措置を事業者に課す超党派の議員立法「脳MRI検査推進法」(道路運送法・貨物自動車運送事業法の一部改正)が昨年12月に成立、先月施行され、健康起因事故の問題は一段と関心が高まって

メントシステム)の認証も取得している。鈴木智巳所長は「安全に必要なことは、ためらわずに取り入りたい」と意気込む。機構の野口一郎業務部長は「われわれのステッカーを貼っているバスは安全だ」といっことを一般の利用者に認識してもらえれば」と話す。

いる。桜交通東京営業所は早くから脳MRIに注目。13人の運転者には健診済証が発行された。日本科学技術連盟(JUSE)が審査した国際規格「ISO39000-1」(道路交通安全マネジ

賃金以上に適切な労働時間や十分な休日を選択する時代になった。安全や健康を売りにした健康経営が重要」と語った。脳・心臓疾患や睡眠時無呼吸症候群(SAS)、過労を防ぐための管理体制の必要性を説き「共通項は生活習慣病予防。定期健診で発見でき、診断後のフォローアップを」と訴えた。職場環境改善の問題でも助言し、トイレ設備の充実などを勧めた。

健康・労務管理で事故防止

国交省がセミナー



「近代経営の基盤は労務管理」と強調する酒井労働科学研究所長(21日、東京・港区)

④認定ステッカー
⑤バスでは車体の扉近くと最後部に貼る(21日、足立区)



国土交通省は21日、バス・タクシー・トラックの経営者・管理者らを対象に「プロドライバーの健康管理・労務管理の向上による事故防止セミナー」を東京・TKP新橋カンファレンスセンターで開催した。日本交通グループ(千代田区)の日本交通健康保険組合の鹿目正事務局長、中日臨海バス(三重県四日市市)の

森川道博社長らが、主要疾病のスクリーニング検査の受診やデジタル式運行記録計の活用など最新の取り組みを披露した。基調講演は大原記念労働科学研究所の酒井一博所長(国交省・軽井沢スキーバス事故対策検討委員長代行)。「近代経営の基盤は労務管理だ。運転者不足が喫緊の課題の中、若い人は

鹿目氏は、乗務員に実施したSASスクリーニング検査について「肥満への認識が強まり、生活習慣を見直すきっかけになった」と述べた。森川氏はデジタルの活用例を示し、運行記録を現場の運行管理者だけでなく、経営陣が把握できる仕組みにしたことを紹介した。